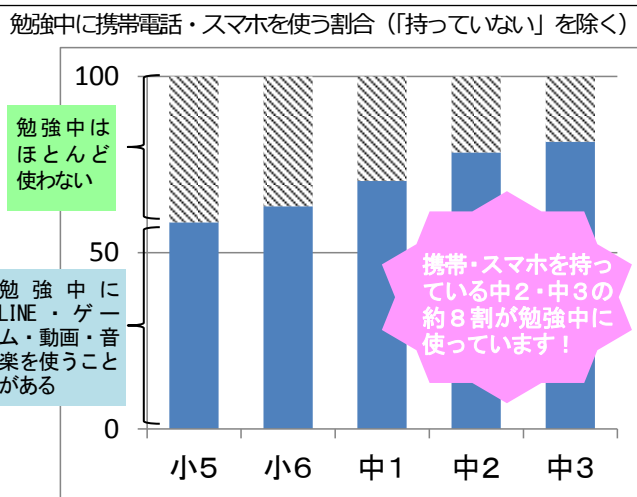
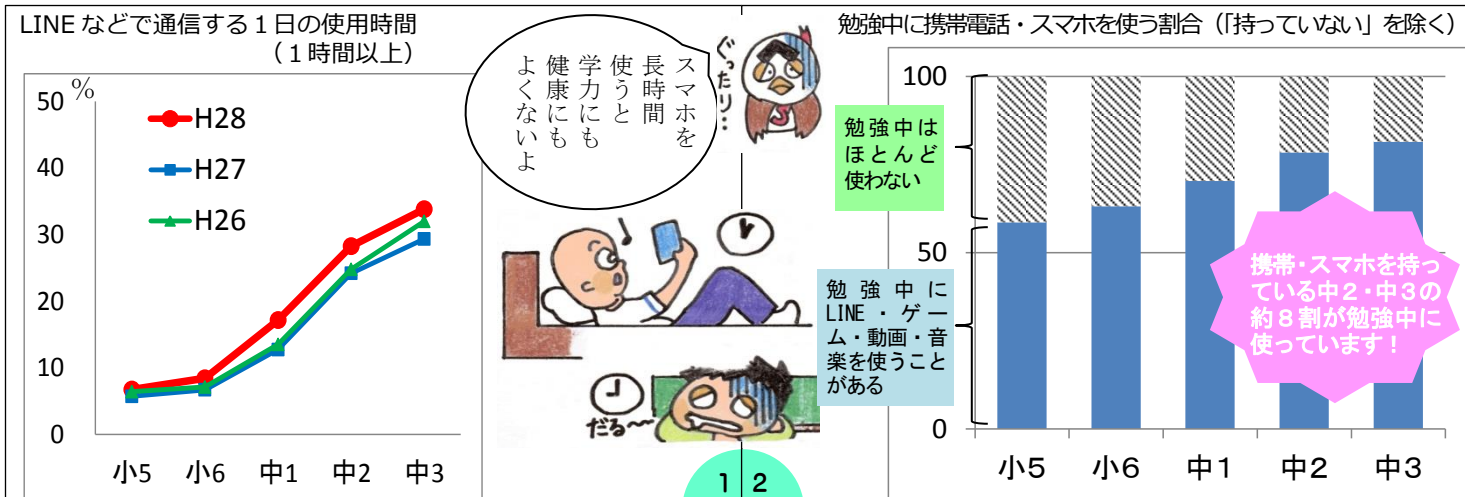


LINEなどを1日1時間以上使ったり、勉強中にもスマホを使ったりしている子どもたちが増えています



携帯・スマホを持っている中2・中3の約8割が勉強中に使っています!

携帯電話・スマホなどの使い方について、家の人と約束したことを守っている。

学年	H26 (%)	H27 (%)	H28 (%)
小5	~40	~45	~45
小6	~45	~45	~45
中1	~45	~50	~50
中2	~50	~50	~50
中3	~55	~55	~55

一方... 約束をつくり、守る意識が年々高くなってきているね

成長期には十分な睡眠時間が必要! 時間を有効に活用する力は今のうちから身に付けよう!

相手の顔を見て対話することもよい人間関係をつくる上でとても大切です

親が子供のお手本になりましょう!

携帯・スマホが及ぼす影響や、使用するとき約束を決めておくことの大切さを理解させましょう

学校では
睡眠不足が体と心に悪影響を与えることを指導する
成長ホルモンが最も分泌する22時から2時の間は、十分に睡眠をとることが、体と心の健全な成長につながると言われています。発育測定や長期休業前などの機会を捉え、児童生徒への保健指導を適切に行うとともに、携帯電話やスマホに時間をとられすぎているか、一日の過ごし方を振り返らせるようにしましょう。

良好な人間関係づくりを意識させる
携帯電話やスマホを適切に使用するためにはどうすればよいか、考えさせる機会をもつようにします。また、良好な人間関係づくりには、LINE等は連絡事項を中心とし、相手の顔を見て対話することが大切なことに気付かせるようにしましょう。

ご家庭では
小学生では約46%、中学生では約53%の家庭で、スマホ等の使い方について保護者と約束したことを守っています。特に強い好奇心を持ち始める思春期に、保護者と約束をし、それを守ることは、自分の身を守ることににつながる大切なことです。
夜間の使用により、事件・事故に巻き込まれることがあるため、家での約束に夜間の使用時間制限(午後9時以降は使用しない)等を入れることをおすすめします。事件・事故の被害者・加害者にならないよう、児童生徒を見守り、適切な声掛けをしてください。

すずめっく

確かな学力研修委員会 生活・学習状況調査部会
～「H28生活・学習状況調査」から見える仙台の子供たち～

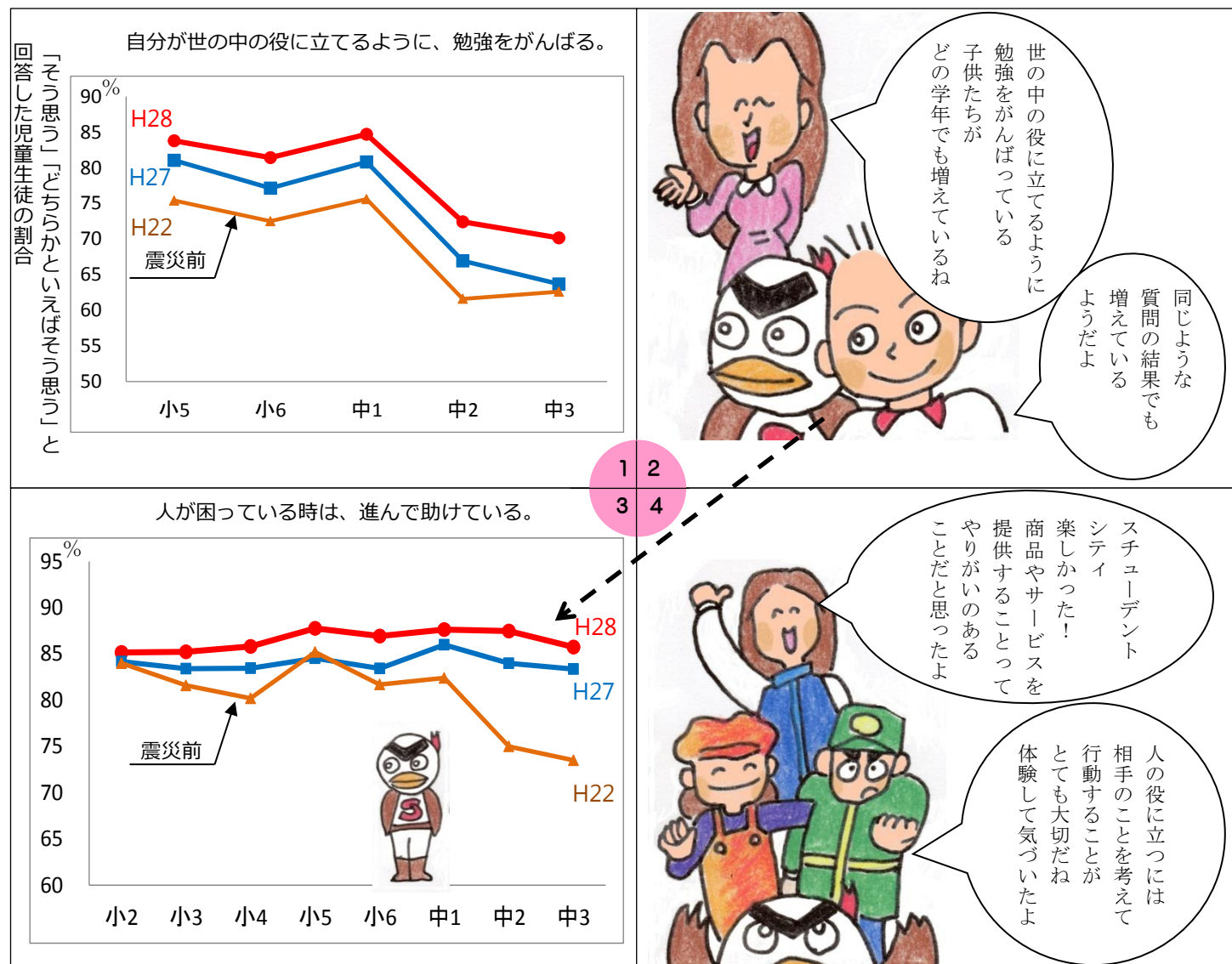


- 1 自分が世の中の役に立てるように、勉強をがんばっている子供たちが増えています
- 2 いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思っている子供たちが増えています
- 3 LINEなどを1日1時間以上使ったり、勉強中にもスマホを使ったりしている子供たちが増えています

実施状況
①実施校数・・・ 市立小学校 121校 市立中学校 63校 中等教育学校 1校
②実施日・・・ 平成28年4月12日(火)～15日(金)
③調査人数・・・ 小2 8,811人 小3 8,642人 小4 8,553人 小5 8,213人 小6 8,308人 中1 8,465人 中2 8,288人 中3 8,314人
④実施内容・・・ ○学校生活 ○授業 ○学習意欲 ○家庭生活 ○自由時間 ○家庭学習等 ○社会・地域との関わり ○道徳心・挑戦・夢 ○自分づくり の9領域についての質問紙調査

詳しくは 中面へ

1 自分が世の中の役に立てるように、勉強をがんばっている子供たちが増えています



将来に対する目標・意識を持たせたり、相手のことを考えて行動することの大切さに気づかせたりしましょう。

学校では

「目の前」の勉強から「将来を意識した」勉強へ
課題意識を持たせた授業や、自分づくり教育を通して「今の勉強が将来何の役に立つのか」という思いを、教師から児童生徒に伝え続けることが大切です。以下の活動等を通して、将来を意識した学習につなげましょう。

- 例 自分づくり夢教室 職場体験活動
- スチューデントシティ ファイナンスパーク

人との関わりから道徳心を養う

学校生活では人と関わることを通して、様々な課題に向き合ったり自分自身の成長につながったりしています。機会に応じて、相手のことを考えた発言や行動を認め、励ましましょう。

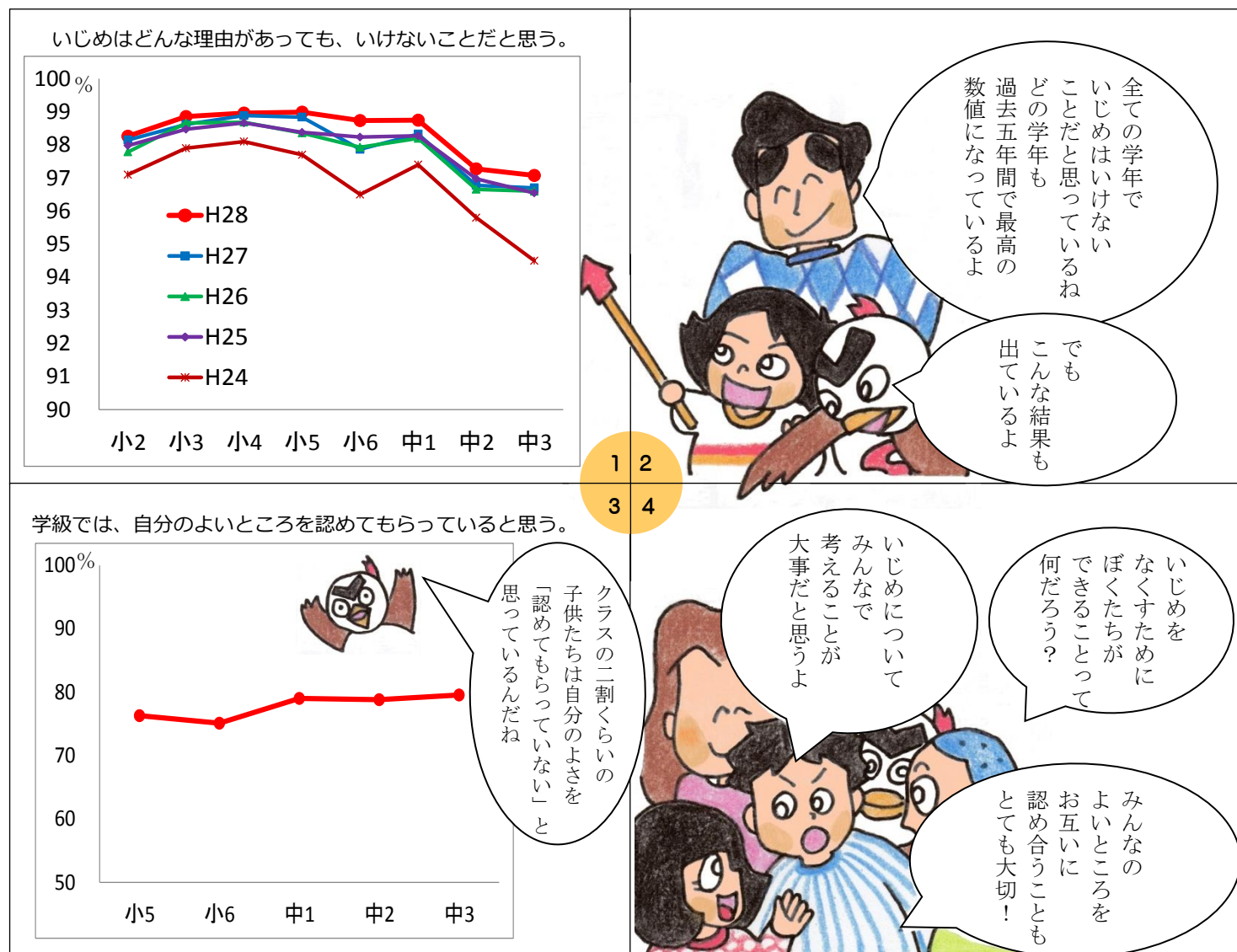
ご家庭では

勉強・運動・習い事など、今児童生徒ががんばっていることを認め、児童生徒の声に耳を傾け、一緒に考えながら励ましてあげてください。

今勉強していることが将来どんな意味を持つのか、社会に役立つとはどんなことなのか、大人の立場からのお話が、自分を好きになるきっかけとなり、子供のやる気を引き出すはずですよ。



2 いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思っている児童生徒が増えています



いじめをなくすためにできることを、継続的に児童生徒とともに考えましょう

学校では

いじめについての正しい理解

いじめはどんな理由があってもいけないことであることを、継続的に、児童・生徒に正しく理解させることが大切です。学級での生徒指導の中で、いじめについてみんなで確認したり、考えさせたりする時間を意図的に作りましょう。

自分の良いところを認識し、学級で共有する

いじめをなくし、楽しい学校生活を送るようになるために、学級内で自分に対する肯定的な意識を持たせることが大切です。自分や友達の良いところ探しをするなど、学級全体で個々の良いところを共有する時間を設け、学級全体がお互いに認め合う雰囲気を作りましょう。

ご家庭では

子供の自己肯定感を高め、前向きに生活できるようにするためには、認め、励まし、褒める機会を多く作る事が大切です。

子供に対して、できないところを叱るよりもできたところを褒める時間を多く設けていきましょう。また、できなかったときは、どうしてできなかったのか子供と一緒に考える姿勢が大切です。

